

Ashoka 第3回 フェロー・イン・レジデンス Fellow in Residence

社会起業家の歩みを追体験する 8 時間
Re-experiencing Trajectory of Innovation

開催日 2019年 **12**月 **2**日(月)

時間 9:00～17:00(8:30開場・昼休憩含む)
18:00～ハシナを囲む夕食会

会場 恵比寿研修会館

- ▶ 言語 アショカ・フェローによるレクチャー：英語
(日本トップレベルの同時通訳者2名が付きます。)
日本人ファシリテーターによるワークショップ：日本語
- ▶ 費用 ¥100,000/人(昼食・夕食会費含む)
- ▶ 定員 24名(先着順)

お申込はこちら



詳細はこちら



*"Shared leadership is
the key to solve global level
human trafficking." -Hasina*

シェアード・リーダーシップによる
人身取引の解決モデルを生み
出したチェンジメーカー

Hasina Kharbhih



講師プロフィール

ハシナ・カービ Hasina Kharbhih

2006年選出フェロー・インド
Impulse NGO Network 創設者・会長

<http://www.impulsengonetwork.org/>

世界の人身売買は、年間316億ドル(約3兆4100億円)規模の産業だ。貧困に端を発した幾層もの綻びが複雑に絡み合っ生まれたこの世界規模の問題に、どこから手をつけていいか途方に暮れてしまう。この状況に光を投げかけたのが、インパルスモデル(Impulse Model)と呼ばれる全てのステークホルダーの協働で成り立つモデルだ。その開発者であるハシナ・カービは、インド北東部のメガラヤ州都シロンで生まれ育った。数カ国と接している飛び地であるメガラヤ州は様々な民族が対立しており統治は不安定で貧しく人身売買と強制売春の中心地でもある。

ハシナは高校生17歳のとき近くの炭鉱で子どもの強制労働が行われていることを知った。そしてクラスメートを巻き込みこの問題に取り組み始めた。調査を進めるうちにわかったことは、多くの組織や団体がバラバラに同じ問題に取り組んでいて結果的には効果を生んでいないということだった。



ハシナ出身地の
インド北東部

*Shared Leadership (シェアード・リーダーシップ)

複数のリーダーシップが集結し、ひとつの大きな力となり、問題の解決を促す新しいリーダーシップの在り方

各組織がそれぞれの強みを活かして協働することが解決への糸口だと直感したハシナは、それまで機能を果たしていなかったインド国立人権委員会を蘇らせ、州政府、警察、弁護士、メディア、大学などに声をかけた。その結果、ステークホルダーが一丸となりそれぞれの強みを生かし結びつくインパルスモデルが確立した。この包括的な協働を可能にするために欠かせないのは、インド工科大学が開発したデータベース ICIC だ。ICIC (Impulse Case Info Center) は、被害のケースの詳細や、容疑者の情報などを記録・管理し、インド各地で人身売買対策部や他国の機関が使えるような機能を持っている。

インパルスモデルは、現在インド北東部8州で導入されており、他の州でも実験的な実施が展開されている。また、中国、ブータン、ミャンマー、ネパール、バングラデシュへの導入も果たした。同時にこのモデルの模倣も始まりインパクトを拡大している。

フェロー・イン・レジデンス Fellow in Residenceとは

アショカの基準に適った社会起業家「アショカ・フェロー」が取り組む世界を変革する活動の、「気付きの芽」から「現在の段階」までを解析し、変革が行き渡るまでの軌跡を辿る 8 時間です。

イノベーターの歩みを噛み砕きながら追体験し、「システムズ・チェンジ」の理解を深めることを目標とします。講義、Q&A、ワークショップを通し、大きなインパクトを実現するまでの旅路を、フェロー自身が語り、共有します。第一回 2018年7月 サシャ・ハゼルマイヤー、第二回 2019年1月 デビッド・グリーンに次いで今回は三回目の実施です。

